

柳の笛の吹き方講座

hatao 平成 26 年 2 月 13 日

教本「柳の笛を吹こう」でカバーできなかった演奏の基礎について解説します。

なお、同じ内容の動画は you tube でご覧になれます。 <http://www.youtube.com/watch?v=f2MwM Safeyw>

ケルトの笛屋さんでは、2 種類の柳の笛を扱っています。

黒い笛は、スウェーデンの J.P.イベール作の塩ビ管の笛で、もうひとつはノルウェーの M.ストーバッケン作の塩ビ管に白樺の皮を巻いた笛です。どちらも D 管を使用します。ここでは、J.P.イベール作の笛を使って説明します。

(1) 構え方



右利きの方は右手で指孔を閉じますので、右手で筒の先を持って、右に構えましょう。

左利きの方は反対になります。ここでは右利き（右に構える）を想定してお話してきます。

左手で指孔とは反対側を持って、右手の人差し指で筒の先端の孔を押さええます。



裏から親指を当てて、前からは中指、薬指、小指を当てて笛を支えます。

人差し指の腹で、筒の先端の指孔を閉じます。

もし他の指のほうが良い方は、どの指で指孔を押さえてもかまいません。



エクストラホールが開いている笛をお持ちの方は、人差し指で先端の孔を閉じて、中指でエクストラホールを押さえると良いでしょう。



唇の状態を見ましょう。

口を「ほ」という時の形にして、上の歯と下の歯の隙間をあけて空気が流れるようにしましょう。

唇の乾いた部分を使って、隙間なく吹き口を閉じます。歯は笛に当たっても結構ですが、空気の流れを遮らないようにしましょう。

左手はブレードを押さえないように注意して（音が出なくなります）、筒の先を支えましょう。指孔は指の腹で隙間なく閉じるようにしましょう。

(2) 吹き方

指孔を開放して、「レ」を吹きましょう。この時、フルートを吹くようなアンブシュア（唇の形）ではなくて、唇で完全に吹き口をおおうようにしましょう。吹き始めにはリコーダーと同じく、タンギングを用います。

「トゥー」という舌の運動で吹いて下さい（声には出さずに）。音を止めるときにも、タンギングを使って息の流れを遮って止めましょう。

レを吹きます。この音がD管の基準音となります。次に、息の強さを変えてみましょう。

柳の笛では強く吹くほど高くなり、弱く吹くほど低くなります。レを基準にして、指孔を開けたまま息を強めて、レ、ファ#、ラ、ド[♭]を吹きましょう。

次に、レを基準にして、指孔を開けたまま息を弱めて、レ、低いラ、レを吹きましょう。

(3) 音のトラブルについて

音が出ないとき、いくつかの原因が考えられますが、ひとつは吹き口に隙間があいていることです。唇で完全に、息が漏れないように吹き口をふさぎましょう。つぎに、プラグの状態が悪くなっているかもしれません。

M・ストーバッケンの笛はプラグが木で出来ているので、吹き続けると木が水分を吸って膨張してしまい、ウィンドウェイの息の流れが悪くなります。そういう時は、プラグを引きぬいて濡れている部分をハンカチなどで吹いて、30分～1時間放置し、乾燥させて下さい。

また、プラグの角度や位置がずれていると、音が出にくくなります。吹きながらプラグをねじりつつ、抜いたり差し込んだりして、一番音が出る場所を探してみてください。

演奏中に音が詰まったり濁ったりしてきた時は、リコーダーやティン・ホイッスルと同じように、吹き口から息を思い切り吸い込んで下さい。または、演奏をいったんやめて、ブレードのところを指で押さえて、強く息を吹き込んで下さい。すると、ウィンドウェイの露を吹き飛ばして、綺麗な音に戻ることができます。

以上です。何かお困りのことがあれば、メールでご相談ください。

hatao@irishflute.info